

五反田駅周辺にぎわいゾーン まちづくりビジョン

— 目 次 —

I. はじめに	 1
II. 地域の現況	 2
III. まちの将来像	 3
IV. まちづくりの実現化方策	 5

— 五反田地域街づくり協議会とは —

五反田地域街づくり協議会は、品川区をはじめとする関係機関との連携のもと五反田地域の発展に向けた様々なまちづくり活動を行うための組織として平成 16 年に設立されました。五反田地域の町会、商店会、企業等の地域を代表する横断的なメンバーにより構成されています。

五反田地域街づくり協議会・品川区防災まちづくり事業部

1. 本ビジョンの目的

本ビジョンが対象とする五反田駅周辺にぎわいゾーンは、鉄道・道路網による優れた交通アクセスを活かし業務・商業施設を中心として発展してきた地域です。

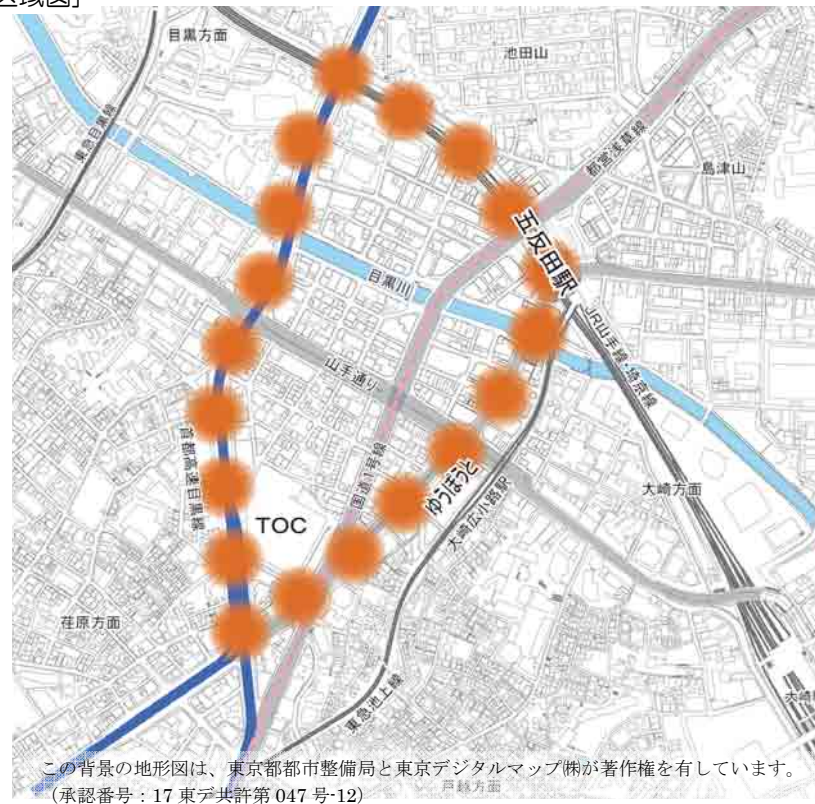
当該地域は品川区随一の業務地としての顔を持ちながら、TOC やゆうぼうとといった商業、文化施設も立地し、さらには目黒川という環境資源を有しています。

しかし、開発が進行中である大崎や目黒に比べ、施設の老朽化や機能低下、遊休化が一部で見られ始めており、地域の更なる活性化に向けた新たなまちづくりを進める必要性が高まっています。

五反田が有する高いポテンシャルを発揮するためには、地域が一丸となって同じ目標のもとまちづくりを展開していくことが必要です。さらに、まちづくりは長期的かつ段階的に行われるものであり、社会・経済動向に応じて柔軟かつ持続的に取組んでいくことが重要となります。

本ビジョンは、五反田地域街づくり協議会と品川区が共同で勉強会を行い、当該地域の将来像とその実現化方策をとりまとめたものであり、今後のまちづくりにおいて有効に活用され、五反田の活性化と発展に寄与することを期待するものです。

〔にぎわいゾーン区域図〕

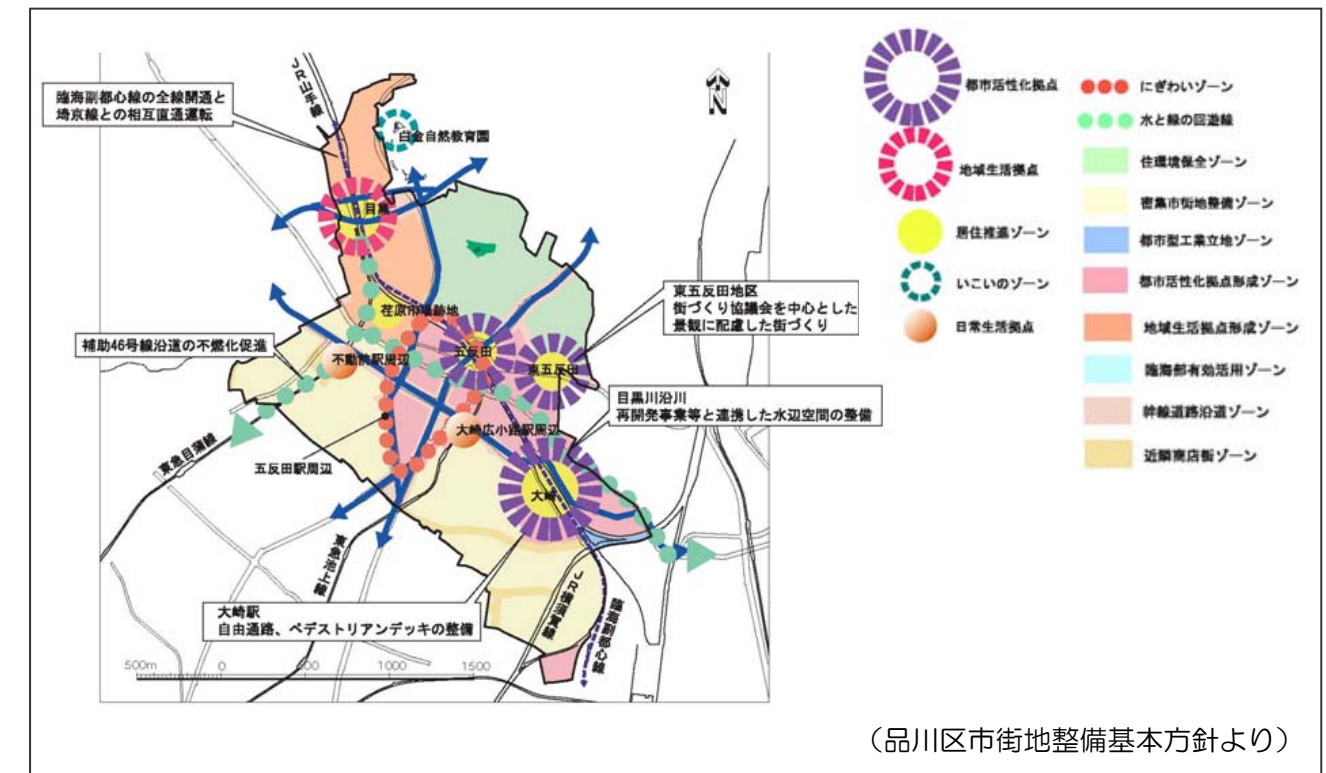
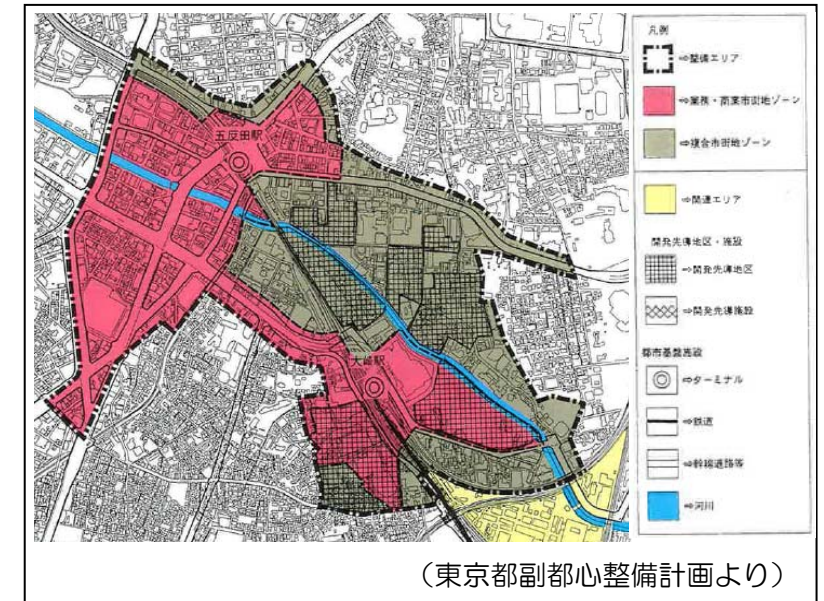


本ビジョンは、品川区市街地整備基本方針において「にぎわいゾーン」に指定されている五反田駅からTOCにかけてのオフィスとマンションが林立する一帯（おおむね JR 山手線、放射 2 号線、補助 15 号線、補助 151 号線に囲まれた区域 約 30ha）を対象としています。その周辺の区域についても地域的一体性やまちづくりに向けて連携を図ることが必要と考えられる場合などは、対象に含みます。

2. 地域の位置づけ

当該地域は、東京オリンピックなどを契機に土地区画整理事業による道路等の都市基盤施設の整備が行われ、これにより商業、業務機能の集積が進みました。昭和 57 年の東京都長期計画では、隣接の大崎地区とともに東京の副都心として位置づけられています。

平成 13 年の品川区市街地整備基本方針では、高次の複合都市機能を備えた副都心としての市街地を形成し、都市デザインにも配慮した質の高い多機能空間を創出することとされ、さらに、五反田駅からTOCにかけての一帯については「にぎわいゾーン」として低層階への店舗の配置等の誘導により回遊性を持たせ、にぎわいのある空間として整備することとされています。



Ⅱ 地区の現況

1. 五反田の特性

■豊かな資源のあるまち

都内有数のビジネスゾーン、池田山や島津山などの閑静な住宅街、TOCや駅前の大規模商業施設や飲食店街、ゆうぽうとや大学等の文化拠点など、様々な資源が五反田には集積しています。また、地区内を目黒川が流れており、都心における貴重な水辺空間となっています。

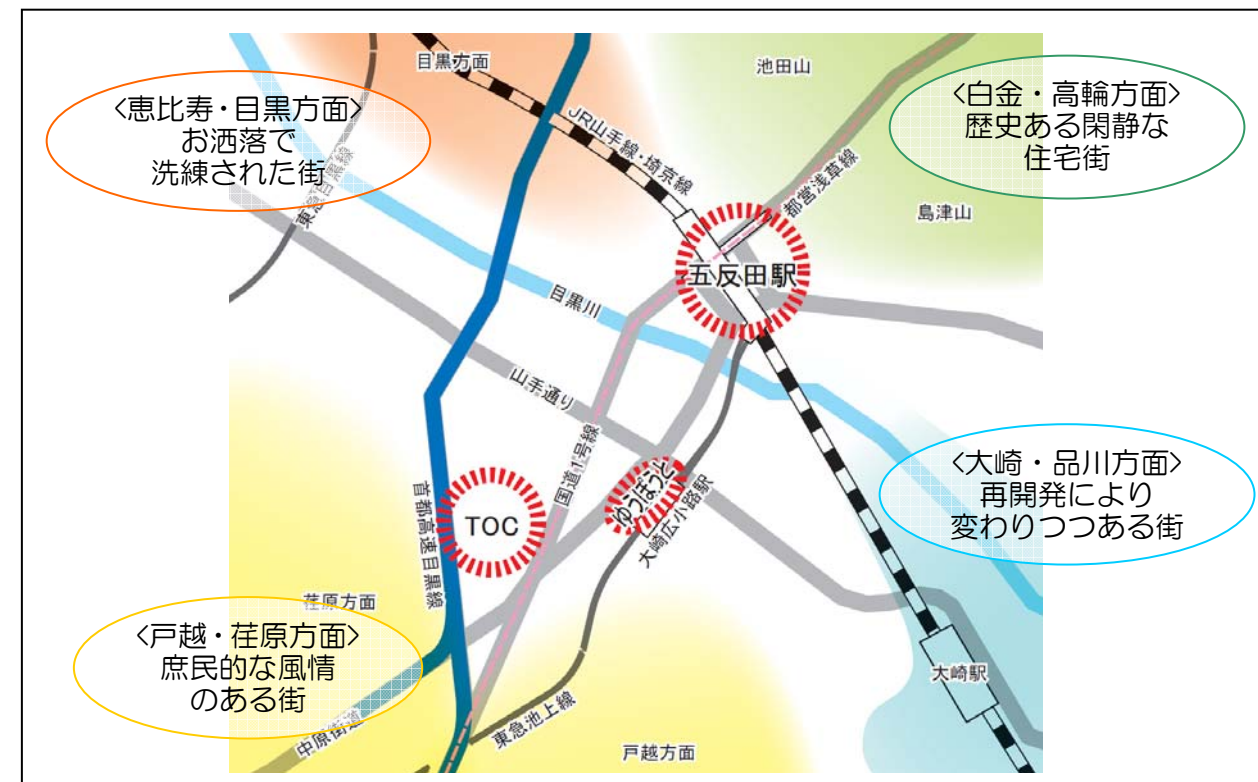
■交通利便性の高いまち

国道1号線と山手通りの幹線道路、JR山手線、都営浅草線、東急池上線の3線が乗り入れ、交通利便性が高い街となっています。また、東京オリンピックなどを契機とした土地区画整理事業により道路等の都市基盤も高い水準で整備されています。

しかし、駅周辺や歩行者空間については十分な機能が発揮されず、歩行者にとっては不自由や不便を感じる使いにくい街という一面もあります。

■多様な顔を持つまち

お洒落で洗練された恵比寿・目黒、閑静な住宅街である白金・高輪方面、再開発が進む大崎・品川方面、商店街のにぎわいのある戸越・荏原など、周辺は個性豊かな街と接しています。その谷間に位置する五反田では、それらのイメージが重層的に折り重なることで、多様な顔を持つ五反田という街の魅力となっています。



2. 地域の現況

●にぎわいに関する事項

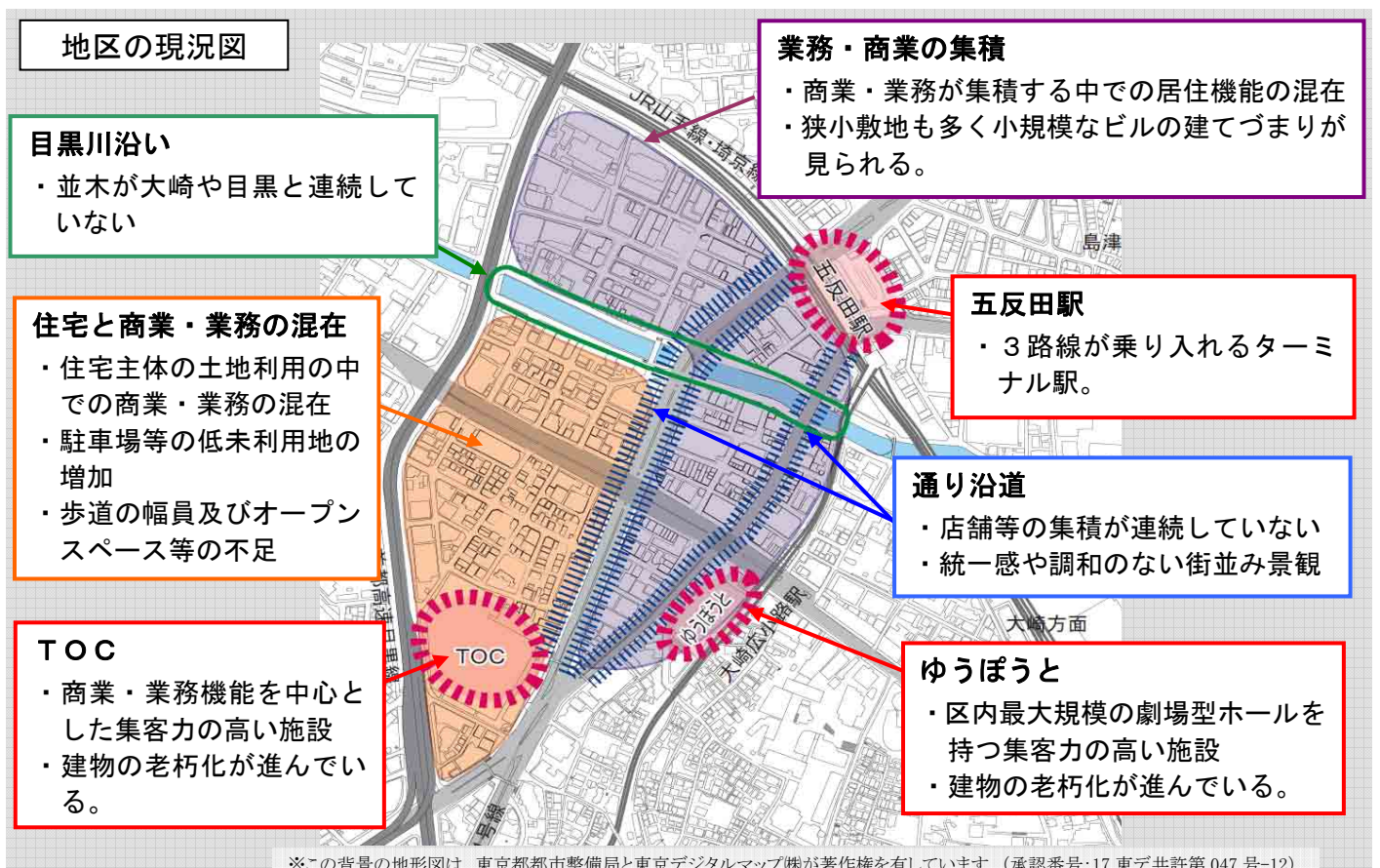
- ・集客力が高い拠点施設（TOC、ゆうぽうと）の老朽化が進行しているが、TOCについては建替え計画があり街の大きな変化の兆しが見え始めている。
- ・駅周辺には店舗等の集積が見られ、駅前商業施設等ではリニューアルが行われているが、そのにぎわいがTOCへ至る通り沿道に連続していない。
- ・幹線道路や目黒川等により地域が分断され一体性に欠ける。

●土地利用や都市基盤に関する事項

- ・高容積の商業地域であるにもかかわらず、幹線道路に面しない区域は、狭い幅員の道路が密に配置されている小規模街区であり、また狭小敷地も多いため、土地の高度・有効利用による建物の更新が難しく、駐車場などの低未利用地も散在している。
- ・駅前広場には幹線道路間の通過交通が入り込み、交通結節機能を阻害している。また、駅のバリアフリー化は進められているが、周辺地域への円滑な歩行者の移動については、横断歩道橋や十分な幅員の歩道、放置自転車等による通行阻害などの課題がある。

●地域のアメニティ等に関する事項

- ・公園や緑地等のオープンスペースが不足している。
- ・目黒川の治水対策は進んでいるが、水質の改善の課題がある。
- ・川沿いの並木・遊歩道が、隣接する大崎や目黒と連続していない。



1. 地域の問題点

●まちの活力が低下している

- ・ 建物の老朽化や拠点的な施設の陳腐化が進行しつつあるなど、まちの新陳代謝が低下している。
- ・ 隣接する大崎地区では開発が進行中であることから、相対的に地区全体に停滞感が感じられる。

●まちのつながり・まとまりがない

- ・ 地区内の拠点や五反田駅の東西、さらに周辺地域とのつながりがなく、まちに面的な広がりがなく個々の資源や機能が地区全体のにぎわいや魅力として発揮されていない。
- ・ 多様な機能が集積しているものの、それらが無秩序に混在しており、個性や魅力に結びついていない。

●道路とまちのミスマッチ

- ・ 土地区画整理事業により道路等の都市基盤は高い水準に整備されているものの、幹線道路でまちが分断されているため不自由や不便を感じる人が多い。
- ・ 狭小な区道の影響により敷地の有効活用が困難なため、市街地内部に低未利用地が存在している。

●まちとしてのアメニティ不足

- ・ 広場やオープンスペース、公園や緑地の不足、アメニティの低い歩行者空間、個性がなく魅力に欠ける景観など、人が集い憩うための環境が満たされていない。
- ・ まちの魅力付加に有効な資源である目黒川の水辺空間が上手く活用されていない。

●偏ったまちのイメージ

- ・ 多様な顔を持つ五反田であるが、マスコミやメディアの情報発信などにより偏った街のイメージで知名度が上がっている。
- ・ タバコの吸殻、チラシ等のゴミや路上看板等により「街が汚い」という地元からの声もあり、イメージとともにまちの環境の向上も求められている。

2. まちづくり基本方針

地域が持つ資源やポテンシャルを最大限に活かし、その機能と個性に磨きをかけながら、五反田らしい魅力とにぎわいのあるまちづくりを展開するため、以下の4項目をまちづくりの基本方針とします。

[1]人が集い交流を育むにぎわいづくり

五反田駅周辺、ゆうぽうと周辺、T O C周辺をにぎわいゾーンの拠点と位置づけ、機能充実を図ると共に、楽しく歩けるまちを目指して地域内の回遊性を高めることにより地域全体のポテンシャルアップを図る。

[2]地域資源を活かした環境・景観づくり

目黒川を環境資源として位置づけ、隣接する大崎、目黒との連携を図ると共に、目黒川沿いの桜並木を地域全体に広げ、まちに彩りを与える。

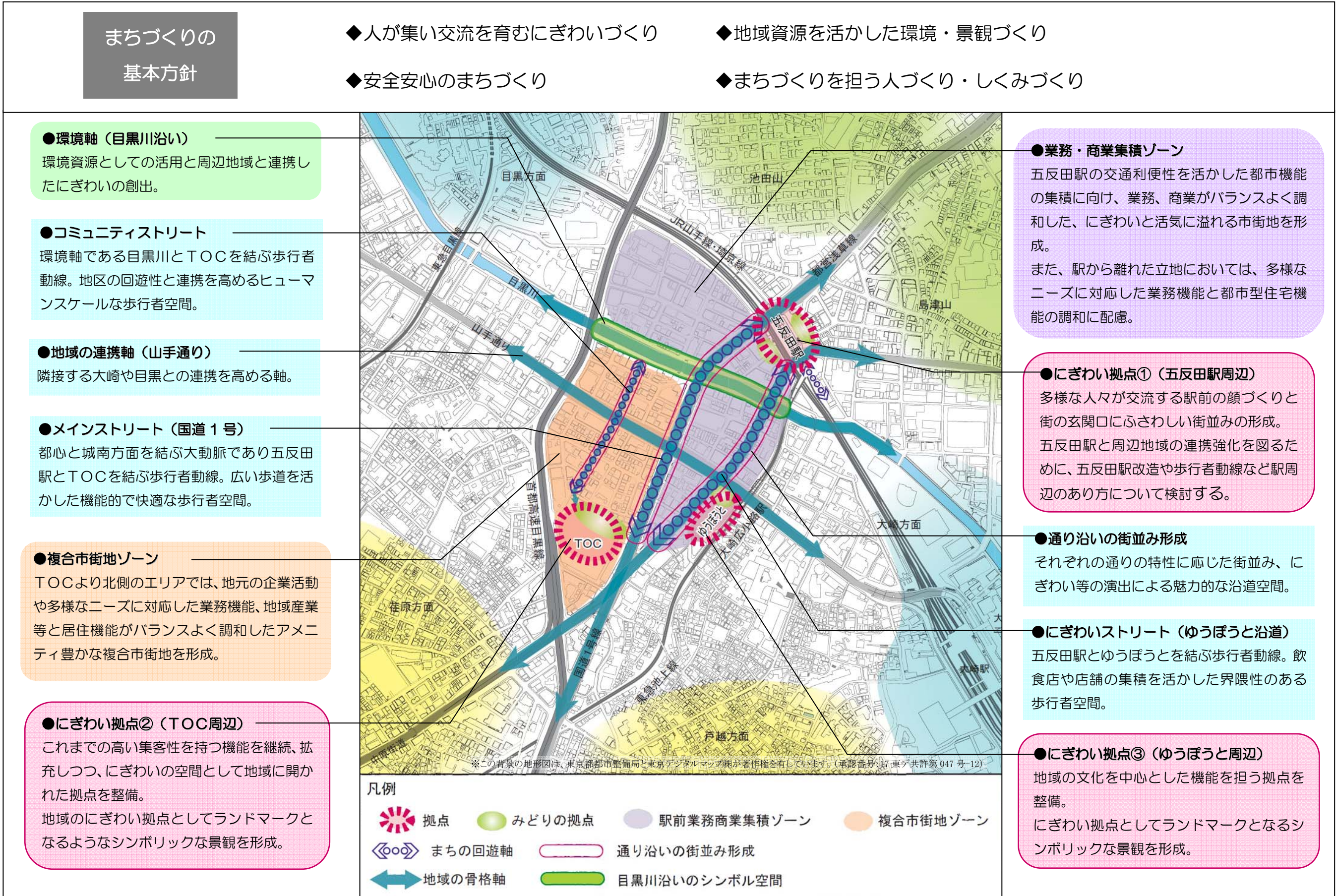
[3]安全安心のまちづくり

五反田駅を中心にバリアフリー化を進めるとともに、既に行われている防犯活動を地域全体の活動へと広げ、誰もが安心して過ごせるまちとしての環境を整える。

[4]まちづくりを担う人づくり・しくみづくり

街づくり協議会を中心に、住民、事業者、行政など様々な人たちと連携し、五反田地域の持続的発展に向けたまちづくり活動を展開する。

3. まちの将来イメージ図



[1]人が集い交流を育むにぎわいづくり

- 地域内の3つの拠点においては、その立地や特性に応じた機能の充実と強化を図るとともに、多様な人、モノ、情報の出会いと交流を促す広場やオープンスペースの整備を行う。
- 一般市街地においても、機能の強化や新たなターゲットやニーズに応じた機能の拡充を図ることで、地域全体のにぎわいを創出する。
- 地域内の拠点を結ぶ歩行者空間の魅力を向上させるとともに、補助的な交通手段を強化することで地域内外の回遊性を高め、街全体の魅力を総合的に向上していく。
- 五反田駅と周辺地域の連携強化を図るために、五反田駅改造や歩行者動線など駅周辺のあり方についての検討を深める。

方策[1]ー1 バラエティに富んだにぎわいの強化

◆3つの拠点のバージョンアップ

- ・上位計画に位置づけられている五反田駅に加え、T O C、ゆうぼうとを地域の拠点として位置づけ、地域全体の更なる発展に寄与する機能更新と環境整備が行われるよう、まちづくりを誘導していく。

にぎわい拠点①（五反田駅周辺）

五反田駅を核とした駅前拠点。街の玄関口にふさわしい顔の演出と交通結節点としての利便性に配慮した都市機能を充実させる。

[必要な機能等]

駅前歩行者空間・アクセスの充実。地域の玄関口にふさわしい街並みの形成



にぎわい拠点②（T O C周辺）

商業を核とした交流拠点。商業を中心に業務、交流といった多様な機能の拡充を図ることにより、にぎわい活動の拠点を形成する。

[必要な機能等]

商業・業務・交流機能等。
にぎわいの拠点となる広場や施設等の整備。



にぎわい拠点③（ゆうぼうと周辺）

文化を核とした様々な情報を発信、創造し、地域の交流を促進する機能を強化する。

[必要な機能等]

文化機能等。
街に開かれた広場の整備等。



[拠点の誘導内容]

- ・拠点の機能更新を行う場合は、まちづくりに必要な機能の導入を図るとともに、必要に応じ高度利用地区等の都市計画手法を活用し、周辺市街地の状況に応じて道路や歩行者空間の拡充、広場・緑地等の環境整備等を行う。

方策[1]ー2 多様なニーズに応じた都市機能の強化

◆選択の幅を広げ街としての魅力に磨きをかける

機能ごとに新たなターゲットやニーズを引き出し、にぎわいが全体に行き渡るよう一般市街地のまちづくりを誘導していく。

商業機能

- 幅広い世代や女性等新たなターゲットに向けた多様な業種業態による商業やサービスの展開

[強化する機能の例]

- ・居心地のよいお洒落でリーズナブルなカフェ
- ・ビジネスをサポートする業種やサービスの充実（出力サービス、文具等）
- ・生活や就労を支える日用買回り品の充実
- ・女性をターゲットにした雑貨店、ドラッグストア など

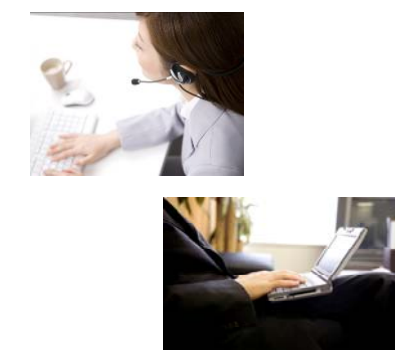


業務機能

- 最新設備を備えたオフィスからリニューアル物件など、多様なニーズに応じたバリエーション豊かなオフィスの供給

[強化する機能の例]

- ・日本を代表する企業の集積を活かした関連企業等の誘致
- ・リーズナブルなりニューアルオフィスの供給
- ・ベンチャー向けのレンタルオフィスやサポートサービスの充実
- ・貸会議室等やホールなどビジネスをサポートする機能の充実
- ・異業種交流、セミナー等、交流の場と機会の創出 など



居住機能については、利便性を重視するライフスタイルや職住近接等のワークスタイルに対応した都市型住宅の供給を推進する。



方策[1]ー3 需要を引き寄せるモビリティの強化

- ・既存の循環バスの活用等により地域内の回遊性と周辺地域との連携を強化する。



T O Cエクスプレス



メトロリンク

方策[1]ー4 まち歩きを楽しめる回遊性の強化

◆通りに個性を与え歩行者空間の魅力を高める

まち全体に人が行き渡り、表通りと裏通り、広い通りや路地空間などまち歩きを選択肢を増やすため、地区内の道路の性格づけを行い、機能の明確化を図り、道路の機能ごとに歩行者空間の魅力を高める。

[主要な道路の性格付けと歩行者空間の誘導方針]

広域幹線道路

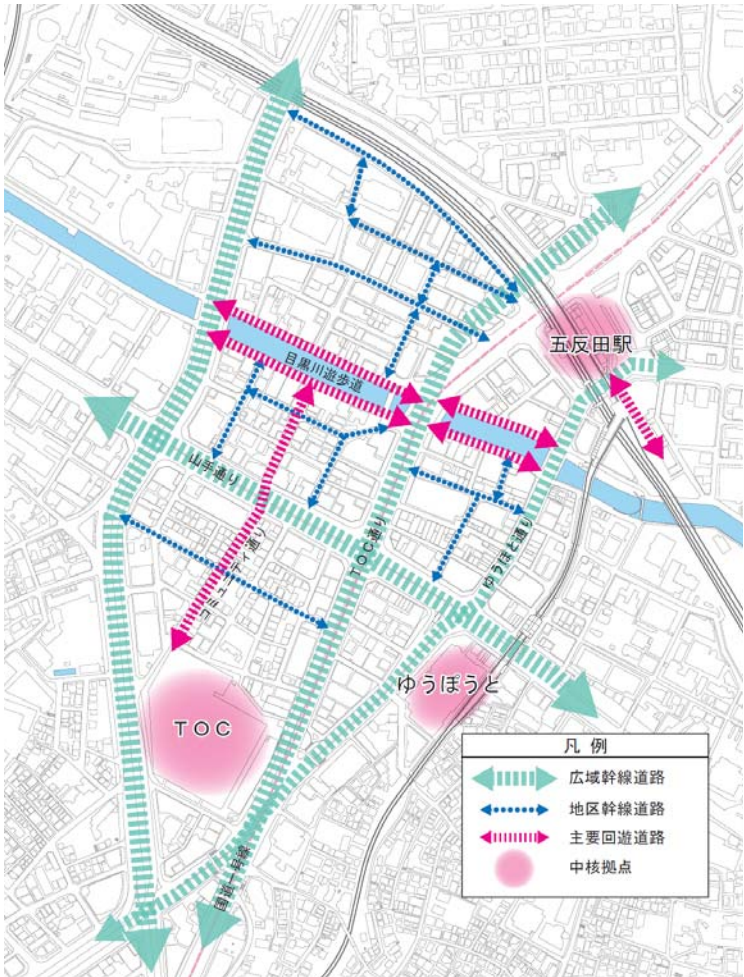
- ・広域交通を担う道路
- ・歩行者が楽しめるにぎわい施設や沿道緑化等の誘導

地区幹線道路

- ・地区内の交通を担う道路
- ・歩行者の安全性に資する歩道状空地や沿道緑化等の誘導

主要回遊道路

- ・地区内の歩行者回遊動線を担う道路
- ・低層部の店舗利用等によるにぎわいの誘導



※この背景の地形図は、東京都都市整備局と東京デジタルマップ㈱が著作権を有しています。
(承認番号:17 東デ共許第 047 号-12)

◆まちの活性化に向けた道路ネットワークの再編

まち全体のにぎわいを高め、まちの活性化に向けた街区再編や共同化を促進するため建替えや開発を行う際には、地区幹線道路や主要回遊道路については、沿道の建替えや開発に伴い安全な歩行者機能の強化や緑化等の環境整備を誘導する。

◆拠点をつなぐ回遊性の高い歩行者ネットワークの強化

地域内の回遊性を高めるため、広域幹線道路のうち拠点をつなぐものおよび主要回遊道路を歩行者ネットワークに位置づけ、通りの魅力づくりとアメニティ性の高い歩行者空間を誘導し、まち歩きを整える。

[歩行者ネットワーク形成に向けた誘導方針]

にぎわい回遊動線

- ・溜まり空間の創出や沿道のにぎわいの連続により、変化と魅力に富んだ通りを形成する。
- ・ウィンドウショッピングを楽しめる店舗の連続、街路樹や植栽による緑化、ストリートファニチャーの設置など、歩く人の目を楽しませる演出を歩行者空間にちりばめる。

目黒川沿いの散歩道

- ・目黒川沿いには緑豊かな水辺空間を楽しめる散歩道を整備する。
- ・川を眺めながら一休みできるスペースなどの整備により、歩行者に安らぎと憩いを提供する。

図：歩行者ネットワーク



※この背景の地形図は、東京都都市整備局と東京デジタルマップ㈱が著作権を有しています。
(承認番号:17 東デ共許第 047 号-12)

〔2〕 地域資源を活かした魅力的な環境・景観づくり

- 五反田地域における重要な軸であり、まちづくり・地域活性化のために大きな役割を担うことが期待される目黒川においては、周辺地域と連携した環境軸の形成を図るとともに、川を活かした空間の演出やイベント等により地域の活性化や地域間交流に活用していく。
- 既存の桜を活かしながら、積極的に桜の植樹を行い、まちに彩りを与えるとともにまちへの愛着や地域の一体感を育てていく。
- 地域内の拠点においては周辺に開かれた緑の空間を確保するとともに、主要な通り沿道の建物、オープンスペース等の緑化を推進する。
- 主要な歩行者動線沿道や拠点等における、ランドマークの創出や通りのまちなみ演出、人が集う場の形成等によりにぎわいの街にふさわしい景観を形成する。
- 幹線道路に面さない市街地においては、敷地の容積率に対して適切な規模の空地・前面道路幅員が確保された、建物とみちのバランスの取れたまちなみを誘導する。

方策〔2〕ー1 周辺地域と連携したにぎわい環境軸の形成

- ・五反田の地域資源である目黒川においては、大崎駅周辺地域と連携した環境軸の形成を図るとともに、川という特性を活かし、大崎～五反田～目黒間のにぎわいや交流を促す多様な活用を図っていく。

○環境軸の形成

- ・新・水と緑のネットワーク構想を踏まえ、地域の環境資源である目黒川を活かし、大崎・目黒と連続した並木や「風の道」等による環境軸を形成する。
- ・目黒川沿いの既存の並木を補強し、大崎～五反田～目黒の桜並木をつなぎ、広域的な名所へと育てていく。

○うるおいスポットの形成

- ・水辺空間を楽しめる遊歩道やオープンスペースによる風と水と緑を感じるうるおいスポットを整備する。
- ・川沿いの店舗等では、落ち着いた色彩のある建築物の色彩やデザインなどに留意しながら、看板やショーウィンドウ等によりにぎわいを演出する。

○川を活かしたにぎわいづくり

- ・沿川のライトアップやイルミネーションなど季節感のある演出により、川の連続性を際立たせ、親しみやすく魅力的な風景を演出する。
- ・川を活用したイベント等の実施により、地域の交流とにぎわいを創出する。



川沿いの緑



ベンチ等の設置



沿道の店舗によるにぎわい



川を活かしたイベント



方策〔2〕ー2 まちに彩りを与える桜の植樹

- ・新しい五反田の象徴として目黒川沿いの桜並木を地域全体に広げ、桜を活かしたまちづくりを展開していく。

○まちを彩る桜（桜によるイメージアップ）

目黒川沿いの桜並木を補強するとともに、国道一号線沿道や地区内の拠点、オープンスペース等へ桜を植樹し、まちに彩りを与える。

○にぎわいとしての桜（桜によるにぎわいづくり）

開花時にはさくらまつりなどのイベントなどににぎわいづくりに貢献する。

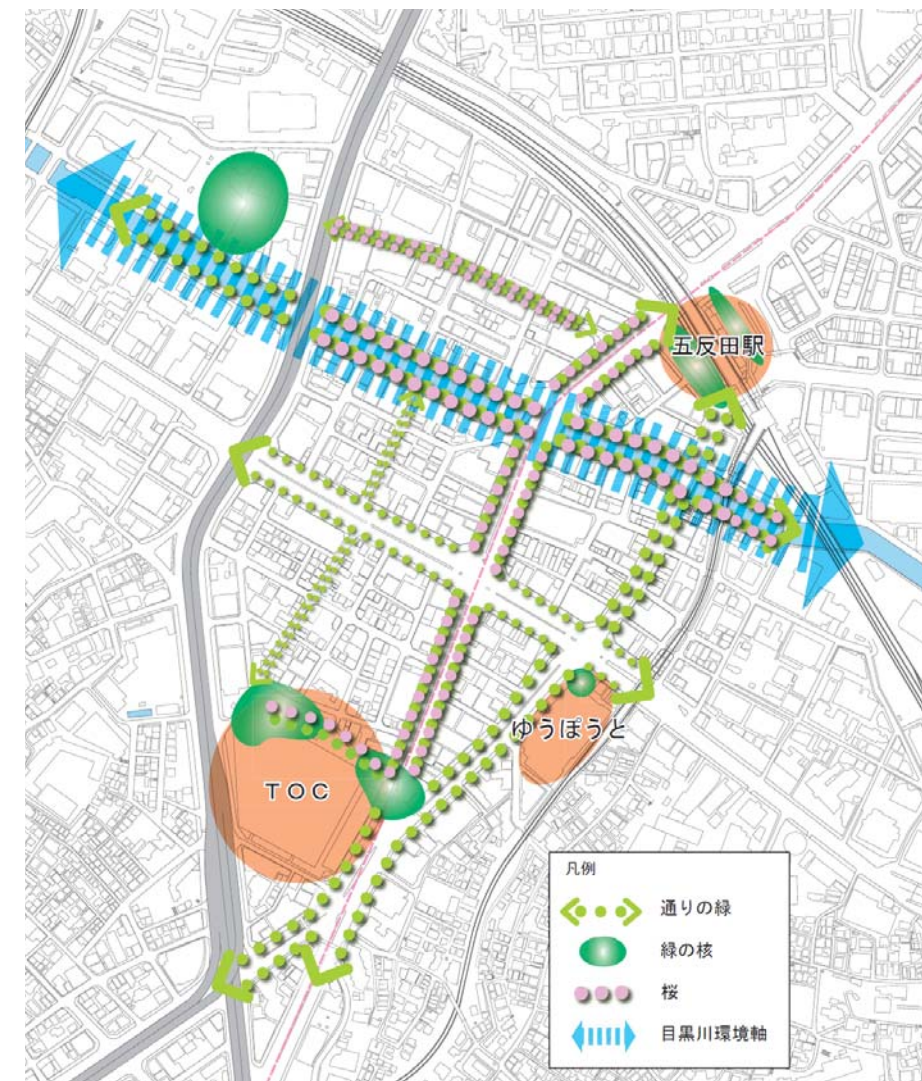
○求心力としての桜（桜による人づくり）

地域が一つになって維持管理に取り組むことで、桜とともにまちへの愛着や一体感を育てる。



川沿いの桜並木

図：緑のネットワーク図



※この背景の地形図は、東京都都市整備局と東京デジタルマップ㈱が著作権を有しています。(承認番号:17 東デ共許第 047 号-12)

方策[2]ー3 拠点や通りを活かしたうるおい空間の創出

- ・通りごとにテーマを設け街路樹や植栽、プランターなどによる緑化を推進し、通りの個性を演出するとともに、緑豊かなうるおい空間を形成する。
- ・快適な緑陰空間を創出するよう、隣接した敷地と協調し、まとまった緑を確保する。
- ・建物の壁面や屋上を活用し、多様な緑の創出を推進する。



街路樹



プランターの設置



壁面緑化

方策[2]ー4 にぎわいのある景観の創出

◆わかりやすいランドマークの形成

- ・国道1号・首都高速などを利用した場合に都心への玄関口となる五反田にふさわしい、副都心としてのまとまりとシンボル性やランドマーク性の感じられる景観を、拠点において誘導する。

◆通りのにぎわいを創出する沿道景観の形成

- ・主要な歩行者動線の沿道で協調しながら、低層部のにぎわいを連続させるとともに、魅力的な景観の形



図：景観形成の骨格イメージ



※この背景の地形図は、東京都都市整備局と東京デジタルマップ㈱が著作権を有しています。(承認番号:17 東デ共計第 047 号-12)

◆人が集い憩う commonspace の整備

- ・通りが交わる交差点や拠点のエントランス等においては、歩行者に安らぎを与えると同時に、通りに楽しさやにぎわいがしみ出すような広場的空間を整備する。

利用しやすい広場空間（新宿）



◆奥行き感を演出し街の味わいを深める

- ・川沿いの親水空間、大通りから一本入った路地空間、その奥に見える店の看板など、まちの個性を活かした奥行きのある演出を図る。

魅力的な路地空間（自由が丘）



地域全体のまちづくり方針（上位計画、本ビジョン等）

にぎわいのある景観の創出

- ・拠点の機能更新
- ・建物更新や共同化の促進
- ・屋外広告物表示への配慮 など

地区計画等による景観、まちなみの誘導

方策[2]ー5 建物とみちのバランスのとれたまちなみの形成

幹線道路に面さない市街地で、前面道路幅員による容積率制限等により建替えや高度利用が困難な地区においては、共同化や建替えが行いやすい環境を整え、高容積建築敷地には適切な規模の空地・前面道路幅員が確保されたまちなみを形成する。

◆市街地のまちなみ景観形成

地域内の一定の広がりをもつ地区で、まちづくりへの機運の高まりや関係権利者の合意形成があった場合は、統一的なまちなみやにぎわいを誘導するため、街並み誘導型地区計画等を活用し、都市型住宅の立地に配慮した質の高い魅力的な複合市街地の形成を図る。また、さらに魅力的な景観形成を進めるための方策を検討する。

例）品川区景観計画における重点地区の指定の検討 等

[地区計画等で定める事項の例]

○統一的な街並みの誘導及び土地の有効利用の促進

- ・建物高さの最高限度、通りに面する建築物の壁面の位置の制限等を定め、道路幅員による容積率の制限や道路斜線を緩和する。

○敷地の細分化の抑制

- ・敷地面積の最低限度を定める。

○通りのにぎわいや魅力的な街並み誘導

- ・通りに面する建物の低層部へのにぎわい施設(店舗等)の誘導。

○統一感のある質の高い景観形成

- ・建物の形態や意匠、色彩の制限を定める。

○良好な市街地環境の整備

- ・建築物の用途の制限を定める。
- ・緑化の最低限度を定める。 等

【3】 安全安心のまちづくり

- 五反田駅を中心としたバリアフリーの早期実現等により人にやさしいまちづくりを展開し、歩行者の安全性や快適性に配慮した環境の整備をすすめていく。
- 来街者が快適に街を歩けるよう、わかりやすく使いやすい街の環境を整える。
- ハードとソフトの両面から安全で安心して暮らせる街づくりを行う。
- まちを気持ちよく歩けるよう、違法な駐車・駐輪、路上の陳列などまちの快適さを損ねる要因をなくしていく。
- 老朽化建物の更新により耐震化を進めるとともに、災害時に有効な空間となるオープンスペース等を確保し、地域の防災機能を強化する。
- 災害時において地域の安全を守るため、地域防災組織と事業所との連携体制の整備を図る。

方策[3]ー1 わかりやすく人にやさしいまちづくり

- ・交通結節点にふさわしい安全で快適な歩行者環境を整えるため、駅周辺のバリアフリー化を推進する。
- ・誰もがわかりやすい地域情報や案内情報を提供するために、街の案内板やサインを充実させ、街の使いやすさを強化する。



バリアフリーの事例



街の案内板・サイン

方策[3]ー2 誰もが安全安心に過ごせるまちづくり

- ・女性や高齢者が歩きやすい環境づくりに向け、地域内に設置されている防犯灯や防犯カメラをより強化し発展させていくとともに、建物や工作物・植栽等を設置する際は、死角が生じないように配慮をする。
- ・住み、働き、訪れる人が安全で安心して過ごせるよう、地域の防犯パトロール隊など既に行われている活動を地域全体の活動へと広げていく。



防犯カメラ（東五反田商店街）



青色防犯灯

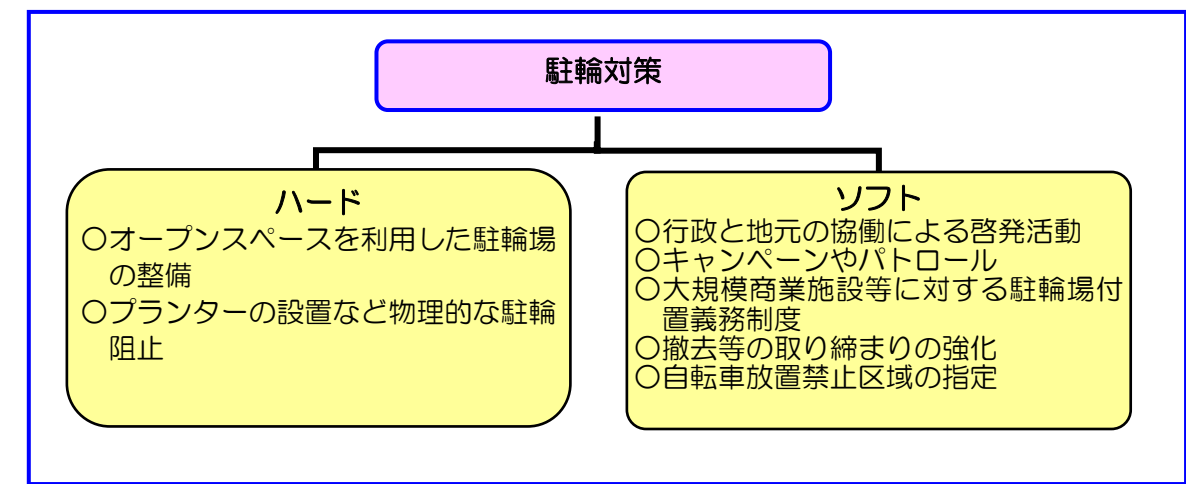


防犯パトロール（池田山町会）

方策[3]ー3 気持ちよさが感じられるまちづくり

◆地域一丸で取組む駐輪・駐車対策

- ・地元と行政が連携した総合的な駐輪対策により、快適に歩ける歩行者空間の実現を図る。
- ・快適な道路環境の実現に向け、大規模集客施設やオフィス、地元商店街等との連携による地域全体で取組む駐車対策等について検討する。



◆みんなが守れる効果的なルールづくり

- ・商品のはみだしや路上陳列、違法広告物など、歩道の快適性を損ねる要素の排除に向け、自主的なルール作りや美化活動を実施する。

【既に行われている活動例】

- ・路上陳列、タテ看板等の自主規制
- ・街の環境浄化をスローガンとしたピンクチラシや捨看板、不法占拠看板等の撤去、勧告（五反田料飲組合環境浄化隊）

方策[3]ー4 災害に強いまちづくり

- ・地域の耐震性を強化するため、老朽化した建物の更新を促す。
- ・災害時の避難に有効な空間となる緑地やオープンスペース等を建物更新に合わせて確保する。
- ・災害時の被害から地域の安全を守るため、地域の防災組織と事業所とが相互に協力し、連携できる体制の整備を図る。

〔4〕 まちづくりを担う人づくり・しくみづくり

○五反田の知名度を活かしつつ、真の五反田の魅力を広く発信するような効果的なイベント等の積み重ねにより、まちのイメージアップを図り、まちも人もともに成長する循環を生み、それが地域独自の個性へとつながるまちづくりを目指していく。

○地域住民や大学、企業等による様々なまちをよくするための既存の活動を地域全体の活動へと広げ、まちと人との絆を深めることによりまちの魅力を維持し発展させていく。

○まちが持続的に発展するよう、協働でまちづくりを展開していく。

方策〔4〕－1 戦略的なPRやイベントによるまちのイメージアップ

- ・目黒川や桜などの地域資源を活用し、地域内外の人が訪れる機会の創出に向け、五反田の個性と魅力を引き立たせるようなイベント等を実施する。
- ・五反田の歴史・文化など地域の資源や魅力をテーマにしたフォーラムの開催や地元の大学や企業とタイアップした街歩きや界隈研究などを実施し、五反田の魅力を再発見、再認識するとともに、新たな魅力へとつなげていく。
- ・地域に住む人、働く人をはじめ、広くは来街者や観光客に向け、PR誌やマップ、HP等を通じて魅力ある地域資源の情報を発信し、まちを積極的にPRする。



地域の桜まつり



川を活用したイベント



寄席等のイベント

方策〔4〕－2 地域の力を活かしたまちをよくする活動の展開

- ・地元の企業、大学、住民、商店会等のボランティアによる地域防災・防犯活動、清掃美化活動等の実施（既存の活動の拡大、新たな活動の実施）
- ・既に行われている個別の活動を地域全体の活動へと広げ、まち全体で取り組むための体制をつくる。



五反田綺麗にし隊による活動（地域清掃、花の植え替え作業）

五反田駅前をきれいにする会

方策〔4〕－3 持続的発展に向けたバランスのとれた公民の連携

- ・地域住民、企業、大学、まちづくり組織等の多様な主体のエネルギーを活かし、地域が一体となったまちづくりを進めるために、多様な協働の仕組みを整備し、まちづくりビジョンの具体的な取組みについて実施、運営していく。
- ・既存のまちづくり組織を核に、組織間の連携を図りながら、より多くの参加者を募り、まちづくりの活動の輪を広げていく。
- ・地域のまちづくり組織の活発な情報交換や交流を行う機会の充実を図ることにより、その活動内容や組織の特性に応じた公民の連携を図り、多様な協働を促進する。
- ・多様な協働を行うためのまちの情報発信拠点等を中心に、様々なイベント等の活動を展開する。

■まちづくり体制のイメージ

